大和公民館だより

発行者 大和公民

〒409-1203 甲州市大和町初鹿野 1693-1

館長(石田)■■■■ 主事(三枝)■■■■

◇ 大和村の誕生 ◇

室町時代の応永23年(1416年)2月には、鎌倉で起こった上杉禅秀の乱に荷担した甲斐守護・武田信満が、都留郡で上杉憲宗勢に敗退し、木賊山で自害。

また、戦国時代の天正10年(1582年)3月には、織田・徳川連合軍の侵攻に備えた武田勝頼が新府城(韮崎市)から郡内領主・小山田信茂の居城である岩殿城へ退く途中の駒飼において信茂の離反を知り、日川溪谷沿いに天目山へ逃れ田野郷で敗死した(天目山の戦い)^[1]。武田氏滅亡後、天正壬午の乱を経て甲斐を領した徳川家康により、勝頼の追福のため景德院が建立され、初鹿野山が寄進され田野郷を寺領に与えられました。

江戸時代には日川両岸に村落が成立する。右岸に初鹿野、鶴瀬の2村が成立し、両村は九筋二領における山梨郡栗原筋に属した。左岸には日影、田野、木賊の3村が成立し、八代郡石和筋に属した。山間部で水田は少ないため、生業は僅かな畑作のほか養蚕や煙草など商品作物の栽培のほか、林業や製炭などの山稼ぎ、甲州道中沿いの駒飼宿や鶴瀬宿での駄賃稼ぎが行われた。

昭和16年(1941年)初鹿野村・鶴瀬村・東八代郡日影村・田野村・木賊村が群鏡合併で誕生し、「大いに和する」の願いを込めて大和村と名付けました。